

〔目的〕 *Mycoplasma pneumoniae* (以下 M.p.) 感染における特異 IgG サブクラス抗体を、モノクローナル抗体を用いた Enzyme linked immunosorbent assay 法 (以下 ELISA) により測定した。

〔対象および方法〕 1983年から1988年に M.p. 感染と診断された62例100検体で、M.p. 全菌体成分を抗原とし、抗ヒト IgG サブクラス抗体を用いて測定した。

〔結果〕 急性期および回復期で IgG2および IgG3抗体が健康対照に比し有意の上昇を認め、抑制試験で、M.p. 感染に特異的と証明された。IgG1および IgG4抗体については有意の上昇は認められなかった。IgG2および IgG3抗体は相関が認められ、また、CF, PHA, M.p. 特異 IgG 抗体とも各々、相関が認められた。

〔考案〕 M.p. 感染では IgG2および G3抗体が特異的に上昇すると考えられた。これが菌体成分のうちの膜蛋白や糖脂質などのどれを抗原としているかは今後の検討が必要である。

13. 免疫抑制剤, MX-1 (K-76COONa) の免疫抑制効果に関する基礎的検討

(腎臓病総合医療センター外科)

河合 達郎・早坂勇太郎・東間 紘・高橋 公太・太田 和夫

免疫抑制剤, MX-1 (K76-COONa) は免疫反応抑制効果と補体活性化阻害効果を有する、新しいタイプの免疫抑制剤として興味もたれている。しかし、MX-1単独での免疫抑制力が低く、*in vitro* の MLR 反応に対しても他の免疫抑制剤と比べても100 μ g/mlの

MX-1で66.1 \pm 4.6%, 50 μ g/mlで25.3 \pm 19.6%, 10 μ g/mlで-6.4 \pm 15.8%と十分な抑制効果がみられなかった。一方、筆者らは他の免疫抑制剤と併用し、その抑制効果を検討した結果、特に methylprednisolone (MP) との併用では低濃度の MP (0.1 μ g/ml: MLR 抑制率=13.2 \pm 18.9%) でも MX-1単独ではみられなかった免疫反応を強く抑制する効果がみとめられた (MX-1; 50 μ g/ml=86.6 \pm 12.0%, 10 μ g/ml=88.4 \pm 9.4%)。

14. 免疫賦活剤 OK-432の腫瘍内投与における所属リンパ節の抗腫瘍性に関する実験的研究

(第2病院外科)

稲葉 俊三・小川 健治・大谷 洋一・矢川 裕一・勝部 隆男・小川 智子・石川 信也・梶原 哲郎

免疫賦活剤 OK-432の腫瘍内投与時に所属リンパ節の抗腫瘍性に与える影響について、以下の実験で検討した。C3H マウスの右ソケイ部皮下に MH-134を移植、担癌5, 7, 9, 11日目に OK-432を5KE 腫瘍内投与したところ、生食水投与の対照にくらべ腫瘍増殖の抑制ならびにリンパ節転移の抑制がみられた。同じ実験系で所属、遠隔リンパ節を摘出、Winn の中和試験をおこなったところ所属リンパ節リンパ球に抗腫瘍性が認められた。さらに、その effector cell は主として Thy 1, 2陽性, Lyt 2, 2陽性の Killer T cell と判明した。また、⁵¹Cr 放射試験で OK 投与群に NK 細胞活性、抗腫瘍活性の増強が認められた。

学術情報

招待講演会

日 時 昭和63年9月9日 (金)
会 場 東京女子医科大学 第2臨床講堂
講 師 Frik J. Meijboom
テーマ “Fetal Cardiology”

招待講演会

日 時 昭和63年9月27日 (火)
会 場 東京女子医科大学 第1臨床講堂
講 師 ロイ・芦刈
テーマ “最近のアメリカにおける乳癌の外科的治療法”